

# 次期京都市基本計画検討資料

## 政策分野 <文化>

### 1 序

- |     |                 |    |
|-----|-----------------|----|
| 1-1 | 京都市基本構想における関連記述 | 1P |
| 1-2 | 現行京都市基本計画に掲げた政策 | 2P |
| 1-3 | これまでの主な取組       | 3P |

### 2 次期京都市基本計画策定に向けた論点

- |     |                   |     |
|-----|-------------------|-----|
| 2-1 | 論点1 現状と課題         | 7P  |
| 2-2 | 論点2 政策の基本方向       | 9P  |
| 2-3 | 論点3 市民と行政の役割分担と共汗 | 15P |
| 2-4 | 論点4 10年後に目指すべき姿   | 17P |

### 3 参考資料

- |     |   |     |
|-----|---|-----|
| 3-1 | 現状分析関連データ   | 22P |
|     | ・客観データ                      ・市民の声<br>・各区基本計画策定に当たって出された課題 |     |
| 3-2 | 主な分野別計画の概要  | 44P |
| 3-3 | 融合委員会ワークショップ結果  | 45P |





# 1 序

## 1-1 京都市基本構想における関連記述

### ～魅力あふれるまち～

わたしたち京都市民は、これまでに生み出され、培われ、磨き上げられてきた市民文化をさらに成熟させ、より豊かで華やぎのある市民文化をかたちづくっていく。

市民文化の成熟とは、市民ひとりひとりの幸福が「人間の尊厳」に深くかわり、物質的なレベルから精神的なレベルまで、社会的なものから芸術的なものまで、その中身が多様でかつ豊かであり、その具体的なイメージも明確に描けるような文化のあり方を意味する。京都という地に、そのような成熟した文化を実現するためには、神社仏閣や仏像・絵巻物など有形の文化財、伝統芸能や季節ごとの行事など無形の文化財、緑豊かな自然や歴史をたっぷり包み込んだ美しい町家と町並み、創造性の高い大学や研究機関、伝統産業から先端技術産業まで優れた技術力を蓄積してきた企業群、ひとびとの心のよりどころとなってきた宗教文化、市民の日常生活に深く浸透している伝統工芸、茶道や華道などの伝統文化、高い水準を維持してきた芸術文化、さらには市民がもつ独特の美的感覚やくらしの知恵など、京都が培ってきたあらゆる文化資源の間で活発な交流を起し、広く国内外との多彩な交流を通じて、それらを今まで以上に生かしていく必要がある。（略）

わたしたち京都市民は、このようにして、京都が華やぎのある美しいまちとしてその存在感を示すことができるよう、魅力あふれるまちづくりを進める。



## 1-2 現行京都市基本計画に掲げた政策

### 文化・芸術 ～成熟した文化が実現する～

芸術文化振興の拠点として設置した「京都芸術センター」を中心に、芸術文化の新たな担い手を育成し、市民文化の振興を図るとともに、多彩な芸術文化交流を推進するなど、文化の創造・発信に向けた総合的な取組を進める。

さらに、京都のまちを構成する主要な要素である文化財の保護に努めるとともに、市民が文化・芸術の豊かさを享受することができるよう積極的な取組を進め、観光や産業分野との連携を一層強めることにより、国内外の文化交流の中心地である文化首都をめざす。



## 1-3 これまでの主な取組

- ① 芸術振興の拠点施設「京都芸術センター」による文化芸術活動の振興，市民，芸術家，企業等が様々な形で参画する「文化ボランティア制度」の創設，世界遺産に登録された二条城での築城400年記念事業などを実施

平成12年開館～

京都芸術センターによる  
文化・芸術活動の振興



平成15年創設

文化ボランティア制度



二条城築城400年記念事業

平成17年10月開館

元離宮二条城  
「築城400年記念 展示・収蔵館」



国宝の二の丸御殿

平成21年構想策定 平成27完成予定～

「京都市動物園構想」(案)  
中間まとめ策定



イメージ図

② 京都が世界的な文化芸術都市となることを目指す「京都文化芸術都市創生条例」の制定、「京都文化芸術都市創生計画」の策定。京都ならではの文化芸術を発信する「京都文化祭典」, 「源氏物語千年紀事業」などを実施し, 「京都国際マンガミュージアム」を開設

平成18年4月施行

京都文化芸術都市創生条例



京都文化芸術  
都市創生審議会

平成16年度から毎年開催

京都文化祭典



京都文化祭典'09  
京の華舞台 二の宴

平成19年度～20年度

源氏物語千年紀事業



源氏物語千年紀委員会

平成18年11月開館

京都国際マンガミュージアム



平成17年度～18年度実施

京響創立50周年記念事業



平成15年9月開館

京都市文化財建造物  
保存技術研修センター





## ◆京都未来まちづくりプランに掲載の関連事業

- ・ 元離宮二条城二之丸御殿遠侍及び車寄ほか10棟保存修理事業
- ・ 大学との連携による未指定文化財庭園の調査
- ・ 京都会館再整備の検討・50周年記念事業
- ・ 美術館再整備・魅力発信事業
- ・ 動物園再整備
- ・ 京都国際映画祭の開催
- ・ デジタルミュージアムの民間との共同による開設
- ・ 五感で感じる和の文化事業
- ・ 無鄰菴計画的整備事業
- ・ 国民文化祭の開催と京都文化祭典の継続
- ・ 「祇園祭」ユネスコ無形文化遺産登録記念事業
- ・ 京都ならではの芸術系大学コンソーシアムの設立・展開
- ・ 市立芸術大学サテライト施設の運営
- ・ 子どもが文化芸術に親しむための取組
- ・ みやこ文化財愛護委員及び文化財マネージャーの育成・支援
- ・ 若手芸術家等の居住・制作・発表の場づくり
- ・ 文化ボランティアなど市民参加による文化芸術都市づくり
- ・ 京都国際音楽祭の開催



## 2 次期京都市基本計画策定に向けた論点

### 論点1 現状と課題

- ◇ 活かすべきチャンス（追い風）は？放置できない問題（向かい風）は？
- ◇ 活用できる資源（強み）は？克服すべきこと（課題）は？

### 論点2 政策の基本方向

- ◇ 今後10年間の基本的考え，価値観は？

### 論点3 市民と行政の役割分担と共汗

- ◇ 政策の推進に当たって市民や行政が行うべきことは？

### 論点4 10年後に目指すべき姿

- ◇ 10年後のあるべき姿やそれが達成された状況を図る指標・目標値は？



## 2-1

### 論点1 現状と課題

- ◇ 活かすべきチャンス（追い風）は？放置できない問題（向かい風）は？
- ◇ 活用できる資源（強み）は？克服すべきこと（課題）は？

# ＜現状分析＞

外部環境分析（施策を推進するうえで、追い風又は向かい風となる変化や社会的な状況）	
追い風	向かい風
<ul style="list-style-type: none"> <li>○京都芸術センターが活発に利用されている〈22P〉</li> <li>○国の支援も強化〈23P〉</li> <li>○アーティスト・イン・レジデンス事業の応募実績が堅調〈24P〉</li> <li>○国でも人材育成に力点〈25P〉</li> <li>○京都文化祭典における多彩な文化的催しの開催〈26P〉</li> <li>○文化財の数が着実に増加〈27P〉</li> <li>○文化ボランティアの新規登録者数は伸び悩み〈28P〉</li> <li>○芸術系大学作品展入場者数は増加傾向〈29P〉</li> <li>○文化芸術の活用が地域のまちづくりに有効であると考えられている〈38P〉</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○京都の文化の豊かさが必ずしも市民に享受されていない〈14,40P〉</li> <li>○社会環境や生活様式の変化により、伝統行事や文化財に関わる伝統技術の保存継承が困難となっている</li> <li>○都市化の進展等により、歴史的価値の高い建造物や庭の消失が進んでいる</li> <li>○国内外で「文化芸術によるまちづくり」が進められるなか、文化芸術に係る相対的な取組の遅れが生じるおそれ〈30P〉</li> <li>○他都市でも文化を活用した産業等の活性化に重点が置かれた〈31P〉</li> </ul>
京都の現況分析（他都市等と比較して、京都の現況が優位又は劣位である事項）	
京都の強み	京都が解決・克服すべき課題
<ul style="list-style-type: none"> <li>○文化施設など豊かな文化資源を有する〈32P〉</li> <li>○人材育成の機能が充実〈33P〉</li> <li>○世界遺産をはじめ、国宝・重要文化財、市指定・登録文化財など多種多様な文化財が数多く所在する〈34P〉</li> <li>○京都に対する旅行者のイメージは、「歴史・文化が素晴らしい」が約80%と圧倒的に強い〈35P〉</li> <li>○京都に関する感想調において、「名所旧跡」「文化財」等が観光客から高い評価を得ている〈36P〉</li> <li>○市民満足度が高い〈39P〉</li> <li>○市民の文化芸術への関心が高い〈40P〉</li> <li>○市民も「京都では文化財に親しむ機会が多い」と実感〈41P〉</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○作品発表の場が不十分</li> <li>○各文化施設等の連携が十分でない</li> <li>○施設の老朽化に伴う諸問題の発生</li> <li>○数多くある貴重な文化財を保存・活用するための経費や人材など支援基盤が脆弱である〈37P〉</li> </ul>



## 2-2

### 論点2 政策の基本方向

- ◇ 今後10年間の基本的考え，価値観は？



## <現在の方向性>

- ・優れた京都の文化芸術を通じて市民生活やまちづくりの取組を活性化し、併せて学術や産業との連携を図ることにより京都を新たな魅力に満ちあふれた世界的な文化芸術都市として創生することを目指す

(京都文化芸術都市創生条例)

- ・文化芸術の振興だけでなく、文化芸術によるまちづくりを進める。
- ・「個別の取組」だけでなく、様々な力の連携によるネットワークづくりを進める。
- ・行政主導型の推進よりも、市民、芸術家、企業等のパートナーシップ型の推進を図る。
- ・これまで以上に京都の文化芸術の魅力や豊かさ＝「今ある文化資源」を活用する。

(京都文化芸術都市創生計画)

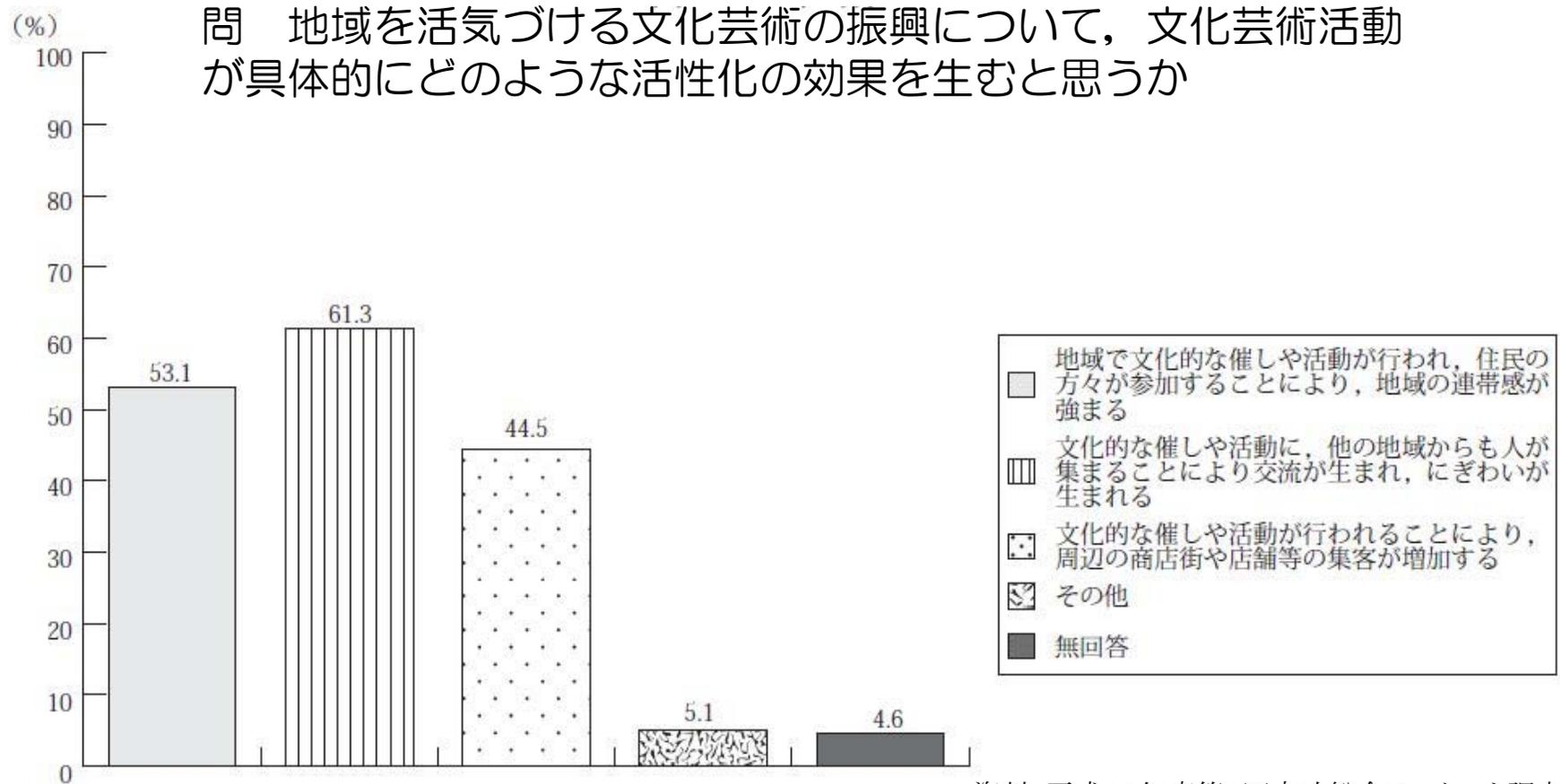
## <政策を進めるうえでの悩み>

- **社会環境の変化や人々の生活様式の変化等により、従前、京都の特性であった「文化芸術と人々の生活や地域との密接なつながり」が次第に希薄化していくおそれがある。**  
＜12P＞
- **芸術団体、関係機関、企業等への、市民の皆さんの期待は大きい。行政として、これらと連携し、また支援し、それぞれの取組を一つの力に結びつけて行く必要がある。** ＜13P＞
- **市民の皆さんの、京都の豊かな文化芸術への関心は高い。これに見合う機会を提供する必要がある。** ＜14P＞



## <関連データ>

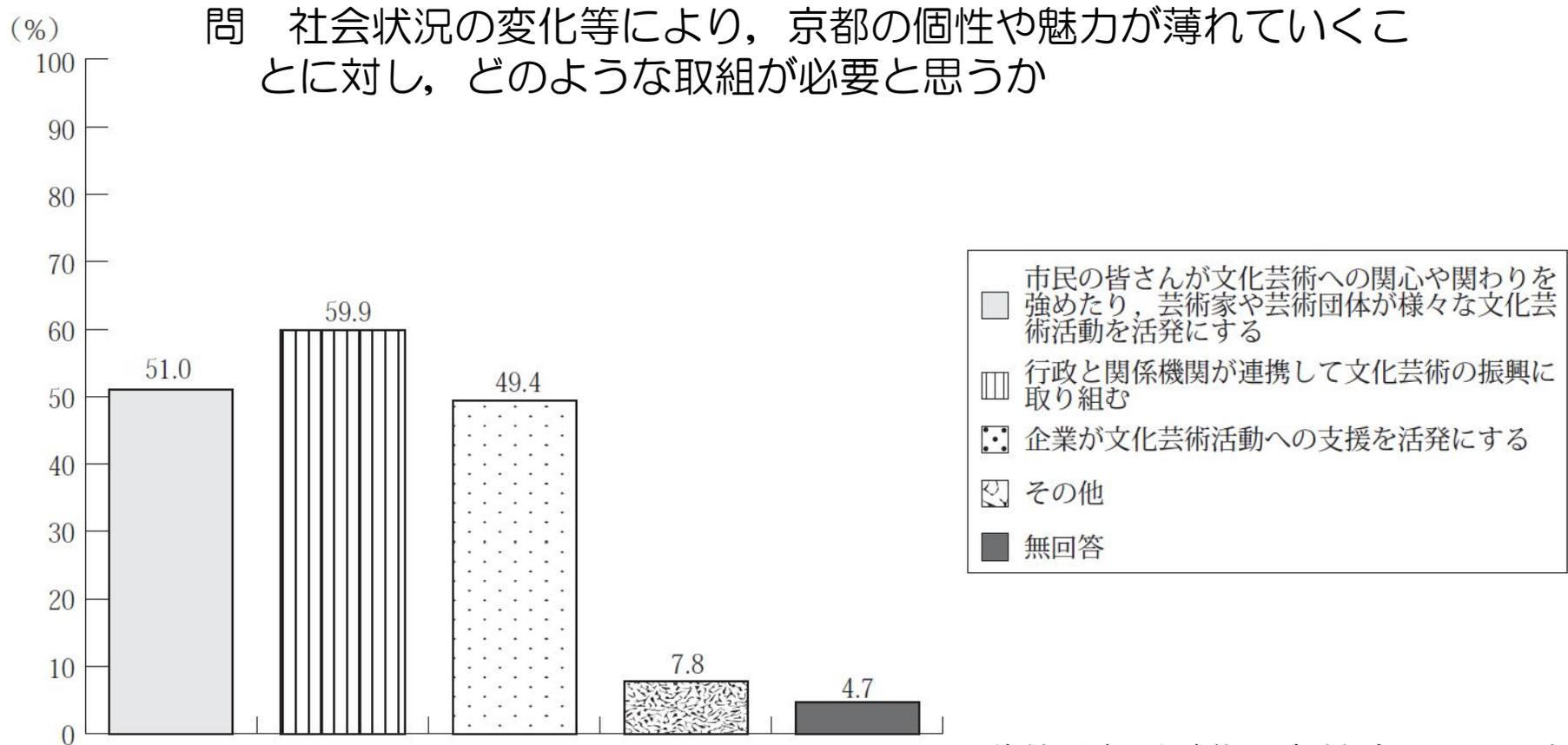
- 約6割の市民が「文化芸術によって、地域に人が集い、交流が生まれ、にぎわいが出る」、5割強の市民が「地域の住民のつながりが強まる」と考える





## <関連データ>

- 約6割の市民が「行政と関係機関の連携」が必要、「市民や芸術家等の取組」や「企業による支援」も約5割の市民が必要と答える



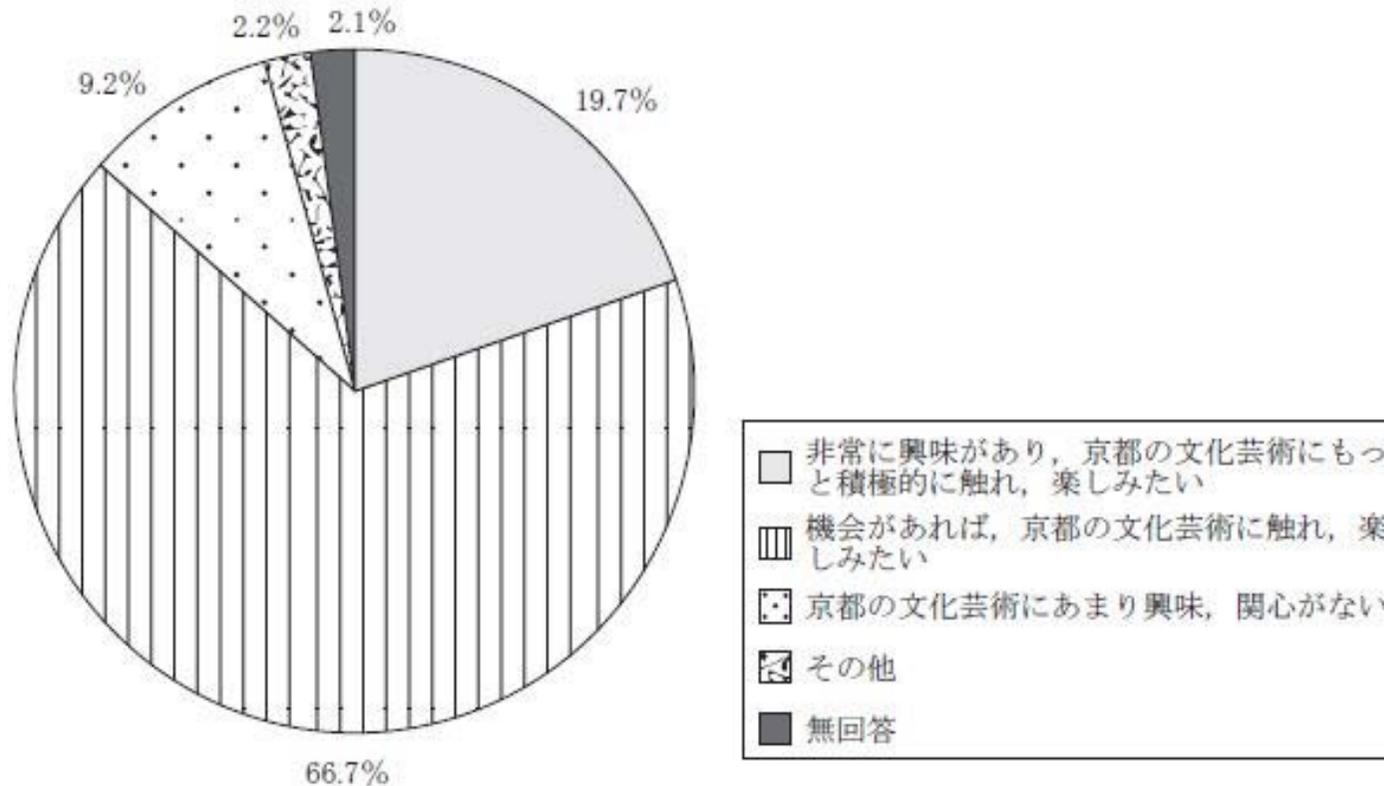
資料:平成18年度第1回市政総合アンケート調査



## <関連データ>

- 8割の市民が文化芸術を楽しみたいと思っている、うち6割は「機会があれば」と回答

問 京都ならではの豊かな文化芸術についてどのように思われますか



資料:平成18年度第1回市政総合アンケート調査



## 2-3

### 論点3 市民と行政の役割分担と共汗

- ◇ 政策の推進に当たって市民や行政が行うべきことは？



# <市民と行政の役割分担と共汗事例>

## <本市の事例>

### ・ みやこ文化財愛護委員及び文化財マネージャーの育成・支援

文化財の適切な保存・活用に取り組み、文化財を活かしたまちづくりを進めるため、文化財の公開事業等の支援を行うボランティア「みやこ文化財愛護委員」や、行政機関等による登録文化財等の調査や、民間の歴史的建造物の調査等で活動する「文化財マネージャー」を育成している。

### ・ 文化ボランティア事業

市民、芸術家、企業等に「文化ボランティア」として様々な形で文化芸術活動に参加していただき、優れた文化芸術に触れるとともに、自らが京都の文化を担っていこうという機運やうねりを創り上げ、これを原動力として、市民、芸術家、企業、行政のパートナーシップの下、文化芸術で京都の町を活性化させる。

## <他都市の事例>

### ・ 神戸フィルムオフィス(神戸市)

映像プロジェクトの神戸への誘致を促進するために、神戸国際観光コンベンション協会を事務局とし、神戸市国際文化観光局文化観光部観光交流課、神戸市シアトル事務所が協働で神戸市フィルムオフィスを設立

### ・ 芸術系NPO支援育成(大阪市)

芸術の分野だけでなく、医療・福祉・教育・環境・国際交流等の広い分野で、アートとの新しい関係を構築し、また、芸術系NPOを立ち上げようとする者に対し、支援と育成を行う事業



## 2-4

### 論点4 10年後に目指すべき姿

◇ 10年後のあるべき姿やそれが達成された状態を測る指標・目標値は？

指標とは・・・

- 10年後の京都の姿を市民と行政が共有するための目じるし
- 市民と行政が共に目指す京都の姿を，言葉や数値で表すもの
- 目標値は，数値で表した指標の10年後に目指すべき水準



## <めざすべき「文化芸術都市」の姿>

文化芸術都市の創生に向けて

「心豊かに生きる」という面での文化芸術が果たし得る役割は、非常に大きなものがあります。そして、文化芸術の効用によって心豊かに暮らせる社会こそ、本計画がめざす「文化芸術都市」の姿です。

- 文化芸術に関わる活動がさかんなまち

伝統的な文化芸術の継承・発展の活動や、文化芸術の新たな創造活動が活発に行われているまち

- 日常の生活シーンの中に文化芸術が見られるまち

文化芸術が市民の皆さんの生活や、身近な暮らしの場である地域の中にしっかりと根付いているまち

- 市民の皆さんが文化芸術を大いに楽しんでいるまち

文化芸術が市民の皆さんに大きな生きる喜びをもたらしているまち

- 文化芸術によって社会全体が活気づいているまち

文化芸術が、産業や大学との結びつきや、独自の都市景観を生かしつつ、社会全体を活気づけているまち

（「京都文化芸術都市創生計画」から）



## ◆政策評価で用いている指標

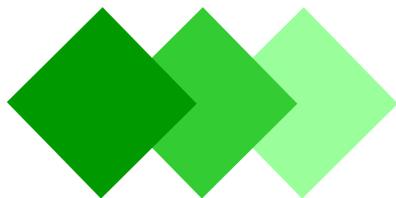
指標	現況値（20年度）
京都芸術センター利用者数	60,812人
京都芸術センター制作室利用率	93.2%
アーティスト・イン・レジデンス事業応募実績	70件
文化ボランティア参加事業年間実施延べ日数の目標達成率	556%
文化ボランティア登録者数	55人
京都市後援名義使用許可数	387件
芸術大学における修士課程及び博士課程への進学者数	56人
芸術系大学作品展入場者数	3,457人
文化会館の使用率	76.2%
美術館の稼働率	94.3%
京都会館の使用率	64.5%
円山公園音楽堂の使用率	14.9%
市指定・登録文化財の数	460件
考古資料館入館者数	21,525人
文化財講座・講演会参加者数	985人
1年間に京都を訪れた観光客数	50,210千人
花灯路来場者数	2,005千人
文化施設の年間入場者数	2,892,436人



## ◆1万2千人市民アンケート※で提案のあった指標

指標
会館・ホール数
京都市出身の職業芸術家の輩出数
祭などの市民参加の普及率
図書館数
伝統文化の継承者数
美術・博物館の無料開放数
分野別教室数
文化・芸術イベント開催数

※1万2千人市民アンケート...次期京都市基本計画の策定に当たって実施したアンケート調査(20年度)



## 3 参考資料

3-1	現状分析関連データ	22P
3-2	主な分野別計画の概要	44P
3-3	融合委員会ワークショップ結果	45P



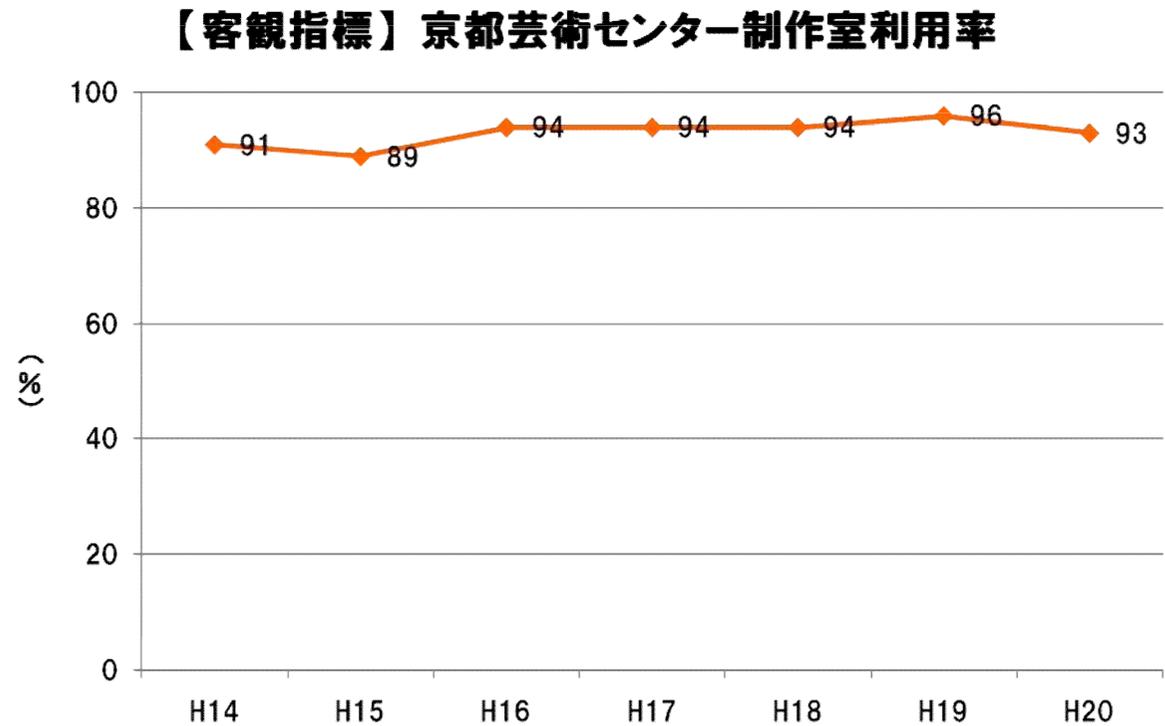
# 3-1 現状分析関連データ

◆客観データ

追い風

➤ 京都芸術センターが活発に利用されている

制作室の利用率が高い





## ◆客観データ

追い風

### ➤ 国の支援も強化

#### ・法，計画の整備

平成13年 文化芸術振興基本法の制定

平成19年 文化芸術の振興に関する基本的な方針  
(第2次基本方針) の策定

※第2次基本方針では，文化芸術の今日的な意義として

- ・「文化力」は国の力
- ・文化芸術と経済は密接に関連

の2点を挙げ“文化芸術の一層の振興を図ることにより，文化芸術で  
国づくりを進める「文化芸術立国」を目指すことが必要”としている。

#### ・文化庁予算額の増加 ※ ( ) 内は一般会計予算に占める割合

平成13年：909億円 (0.110%)



平成21年：1,020億円 (0.115%)

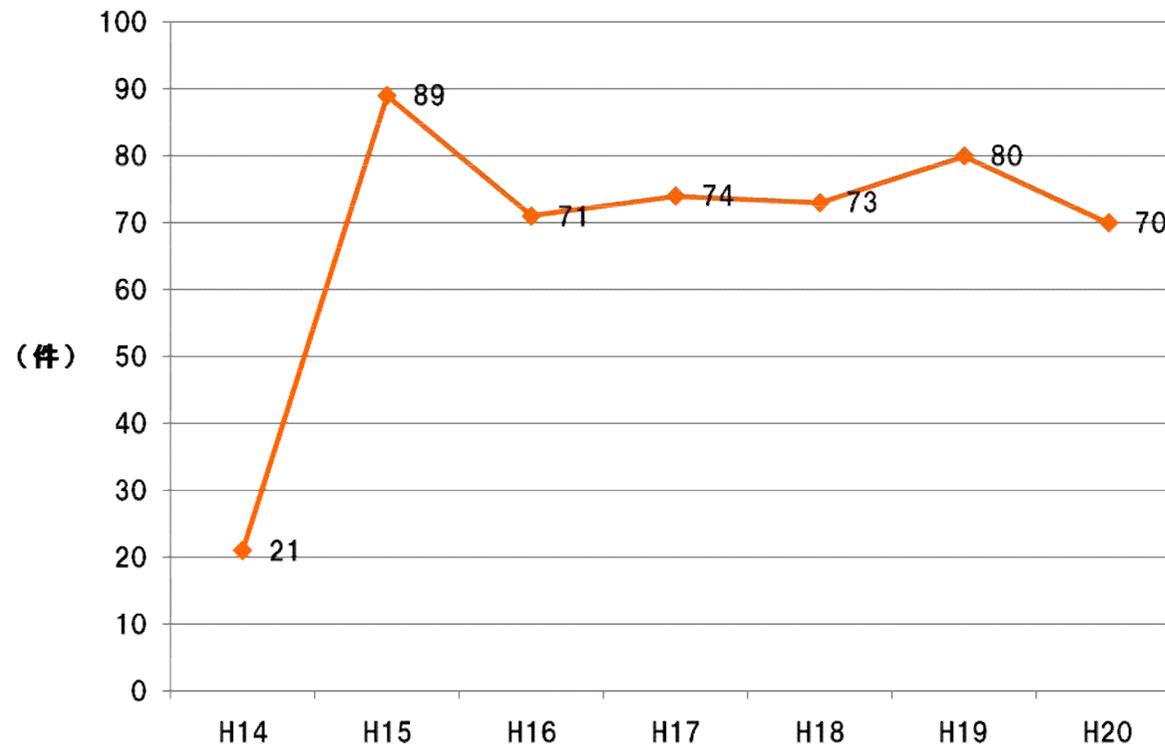


## ◆客観データ

追い風

➤ アーティスト・イン・レジデンス事業の応募実績が堅調

【客観指標】アーティスト・イン・レジデンス事業応募実績





## ◆客観データ

追い風

➤ 国でも人材育成に力点

### 国では、新進芸術家の育成等に力を入れている

①新進芸術家の養成・発表への支援	
ア. 新進芸術家海外留学制度	美術、音楽、舞踊、演劇等の各分野における新進芸術家の海外の大学や芸術団体等への留学を支援することにより、実践的な研修の機会を提供しています。 1年派遣、2年派遣、3年派遣、特別研修(80日間)があり、平成16年度末までに、前身の「芸術家在外研修」事業と合わせて、約2,000名を派遣しました。
イ. 新進芸術家国内研修制度	新進芸術家が美術、音楽、舞踊、演劇、伝統文化等の各分野について国内の研修機関における実践的な研修の機会を提供しています。
ウ. 海外新進芸術家招聘事業	美術、音楽、舞踊、演劇等の各分野において、海外の優秀な新進芸術家に我が国での研修機会を提供しています。
エ. 新進芸術家の育成公演事業	新進芸術家海外留学制度により研修を行った若手芸術家に研修成果を発表する機会を提供するとともに、各芸術団体の新進芸術家にも発表の機会を提供しています。
②芸術団体等が行う養成発表機会の充実	
ア. 芸術団体人材育成支援事業	協会等団体が自主的に行う新進芸術家などに対する養成・研修事業や新人コンクールなどの事業を支援しています。
イ. 優秀指導者特別指導助成	美術、音楽、舞踊、演劇など各分野において、世界のトップクラスの指導者を海外から招聘しています。



## ◆客観データ

追い風

➤ 京都文化祭典における多彩な文化的催しの開催

### 京都文化祭典

京都が悠久の歴史の中で培ってきた伝統芸能や先駆的な文化芸術を発信するとともに、世界に誇る「文化芸術都市」であることを国内外に広くアピールするため、平成16年度以降毎年開催しており、今年で6回目。

- ・ 市民ふれあいステージ  
梅小路公園で、2日間にわたり開催。一般公募により選出された多彩な団体のステージ発表や、様々なブースの出展等。
- ・ 京の華舞台  
京都ならではの神社仏閣等を舞台に、京都が内外に誇る伝統芸能をはじめ、様々な文化イベントを展開。
- ・ 京都の秋 音楽祭  
国内外の著名な演奏家や、京都にゆかりある演奏家たちが出演する多彩な演奏会を開催。会場は、京都のクラシック音楽の殿堂、京都コンサートホール。

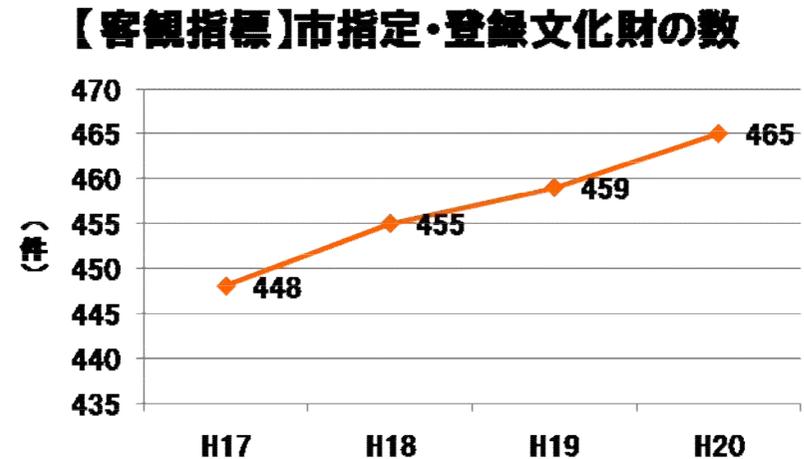
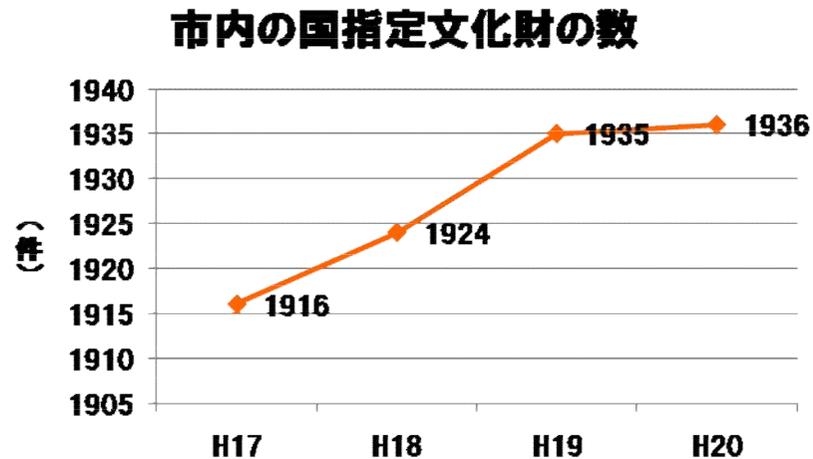


## ◆客観データ

追い風

➤ 文化財の数が着実に増加

- 国指定文化財の件数が毎年増加している。
- 未指定文化財の調査を行い、「京都市指定・登録文化財」として、毎年、指定・登録を行っている。



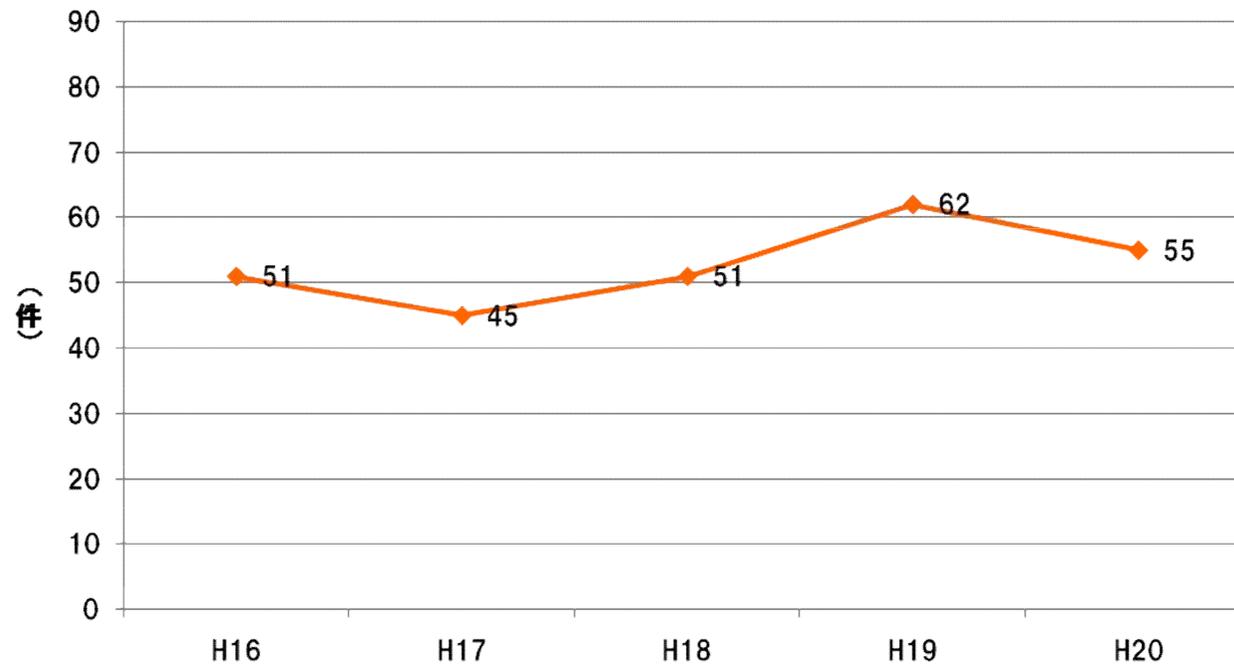


## ◆客観データ

追い風

➤ 文化ボランティアの新規登録者数は増加傾向

### 【客観指標】文化ボランティア登録者数

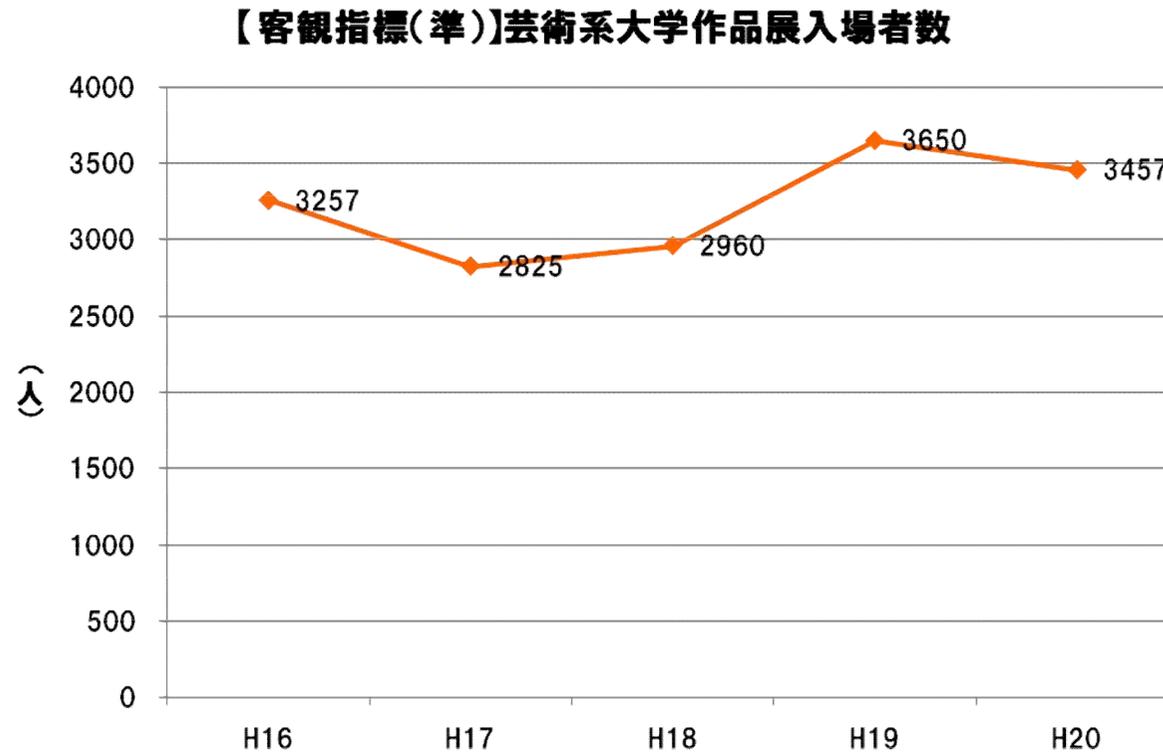




## ◆客観データ

追い風

➤ 芸術系大学作品展の入場者数は増加傾向



## ◆客観データ

- 国内外で「文化芸術によるまちづくり」が進められるなか、文化芸術に係る相対的な取組の遅れが生じるおそれ

・創造都市という概念の下、文化芸術によるまちづくりが、世界各地で進められている。

<創造都市とは>

文化と産業における創造性に富み、…グローバルな環境問題や、あるいはローカルな地域社会の課題に対して、創造的問題解決を行えるような『創造の場』に富んだ都市

<創造都市の例>

ボローニャ（イタリア）

バーミンガム（イギリス）

サンフランシスコ（アメリカ合衆国）

金沢（日本）

（大阪市立大学大学院教授 佐々木 雅幸 氏 HPから）



## ◆客観データ

向かい風

- 他都市でも文化を活用した産業等の活性化に重点が置かれた

### <文化を活用した産業等の活性化事例>

#### ○大阪デジタルコンテンツファンド（大阪府）

デジタルコンテンツ制作企業を支援するファンド。

大阪デジタルコンテンツビジネス創出協議会と連携して、関西圏をはじめ全国のデジタルコンテンツ産業の振興を資金面で支援する。

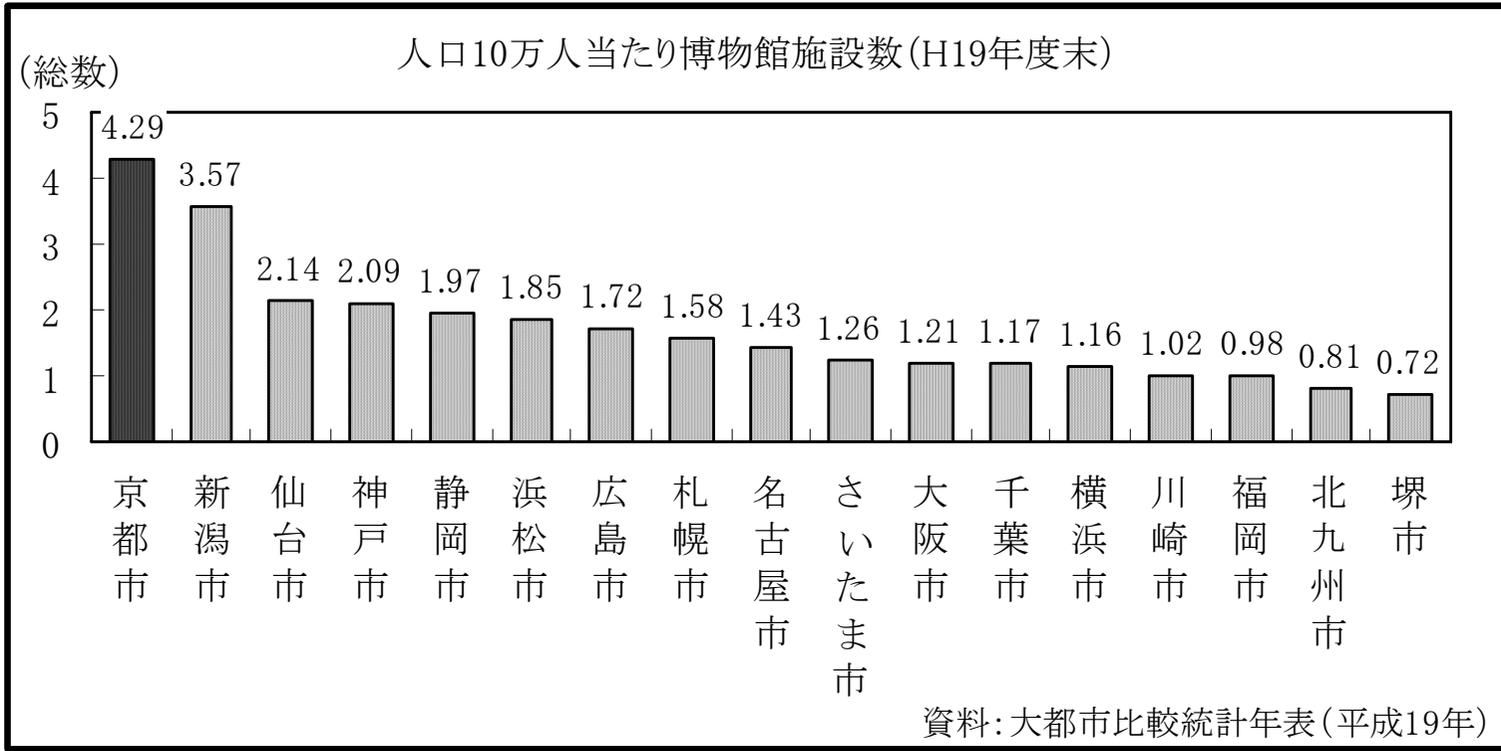
#### ○映像文化都市（横浜市）

映像・コンテンツ系の産業，エンターテインメント産業の集積を図ることにより，新産業の創出や雇用の拡大といった経済の活性化を目指す。また，ロケを誘致し新しい観光資源を発掘する。



◆客観データ

➤ 文化施設など豊かな文化資源を有する



人口10万人当たり博物館施設数が、政令市で最多



◆客観データ

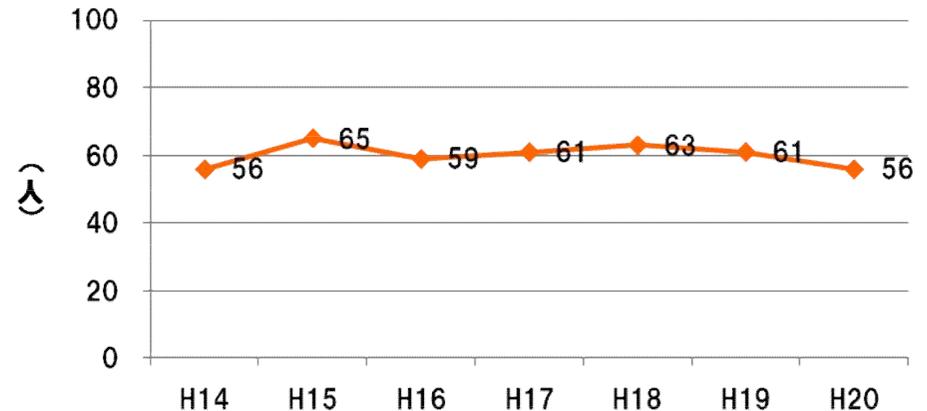
➤ 人材育成の機能が充実

- ・ 財団法人大学コンソーシアム京都に芸術系大学10大学が加盟
- ・ 高い芸術大学の修士・博士課程への進学者数

< (財) 大学コンソーシアム京都加盟の芸術系大学 >

池坊短期大学	京都嵯峨芸術大学
京都工芸繊維大学	京都教育大学
京都嵯峨芸術大学短期大学部	京都市立芸術大学
京都精華大学	京都造形芸術大学
大阪成蹊大学芸術学部	成安造形大学

【客観指標】芸術大学における修士課程及び博士課程への進学者数

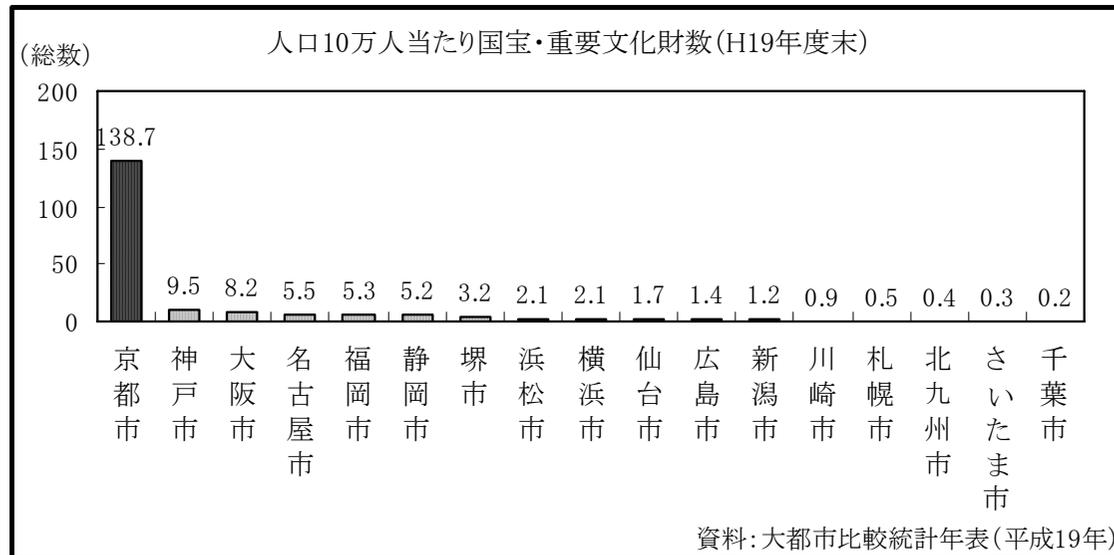




## ◆客観データ

## 京都の強み

- 世界遺産をはじめ、国宝・重要文化財、市指定・登録文化財など多種多様な文化財が数多く所在する



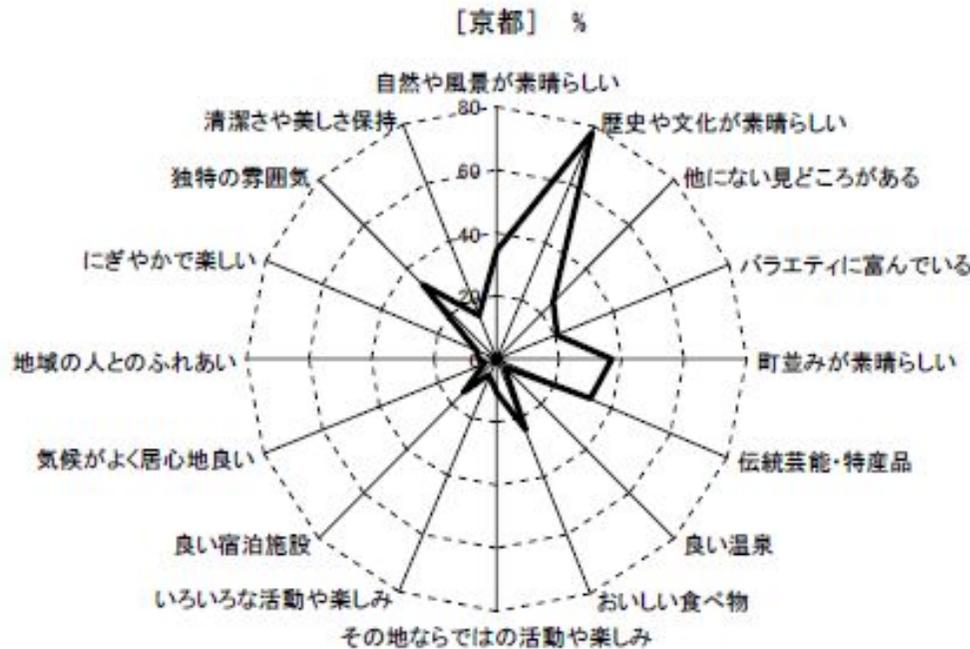


## ◆客観データ

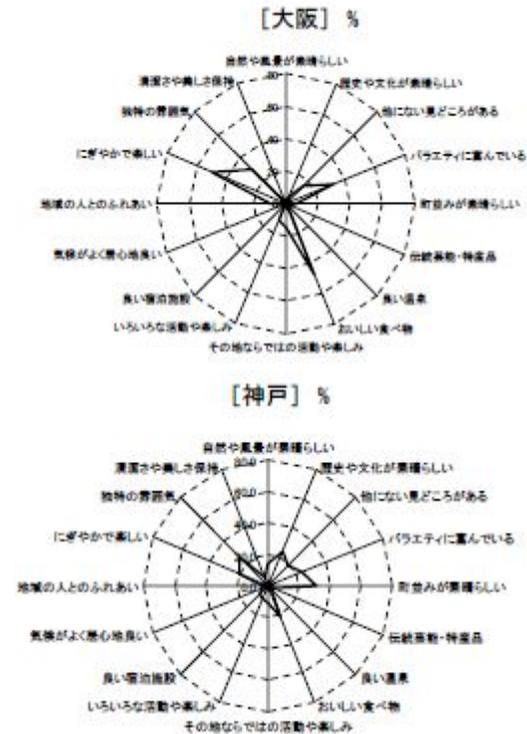
# 京都の強み

➤ 京都に対する旅行者のイメージは、「歴史・文化が素晴らしい」が約80%と圧倒的に強い

京都に対する旅行者のイメージ



(参考)大阪と神戸に対する旅行者のイメージ



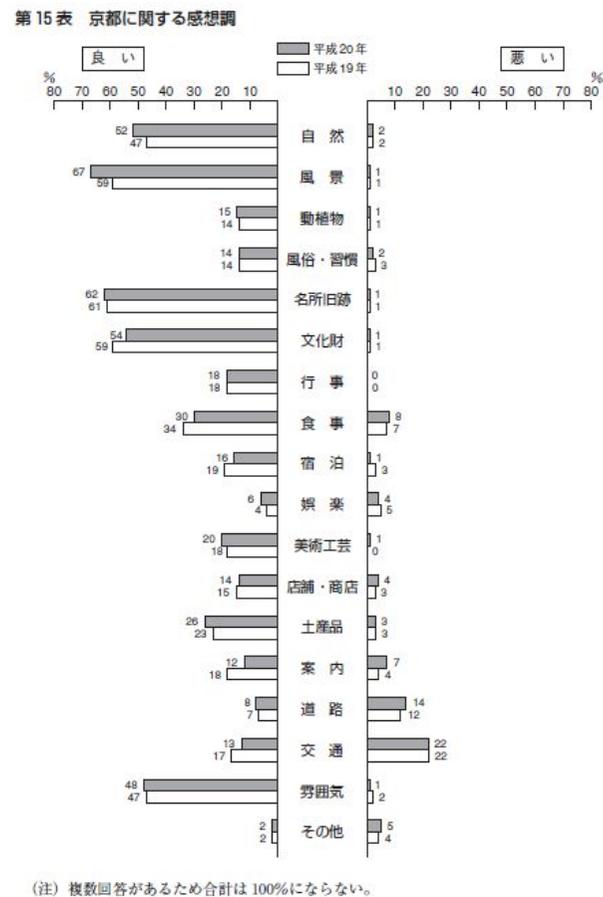
財団法人日本交通公社「旅行者動向」



## ◆客観データ

## 京都の強み

➤ 京都に関する感想調において、「名所旧跡」「文化財」等が、観光客から高い評価を得ている



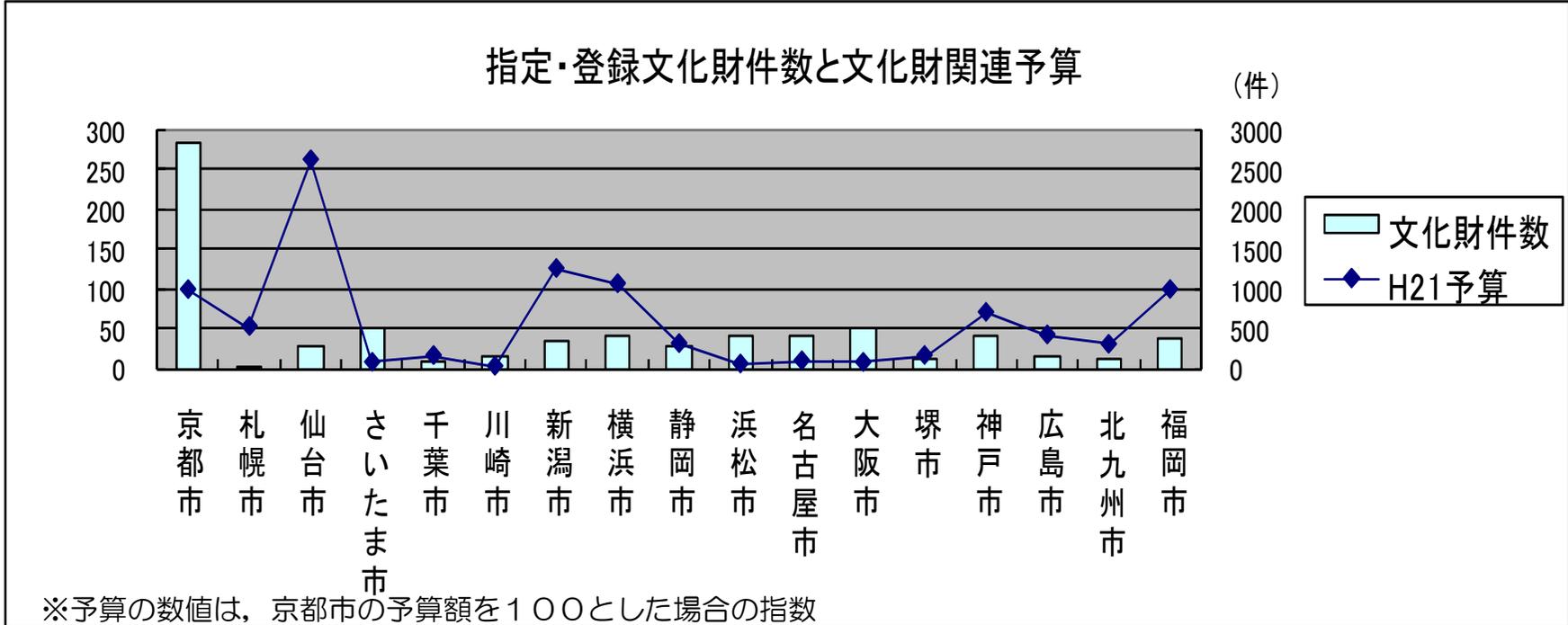
平成20年京都市観光調査年報



### ◆客観データ

## 京都が解決・克服すべき課題

➤ 数多くある貴重な文化財を保存・活用するための経費や人材などの支援基盤が脆弱である



出典：「指定都市文化財行政主管者協議会資料」

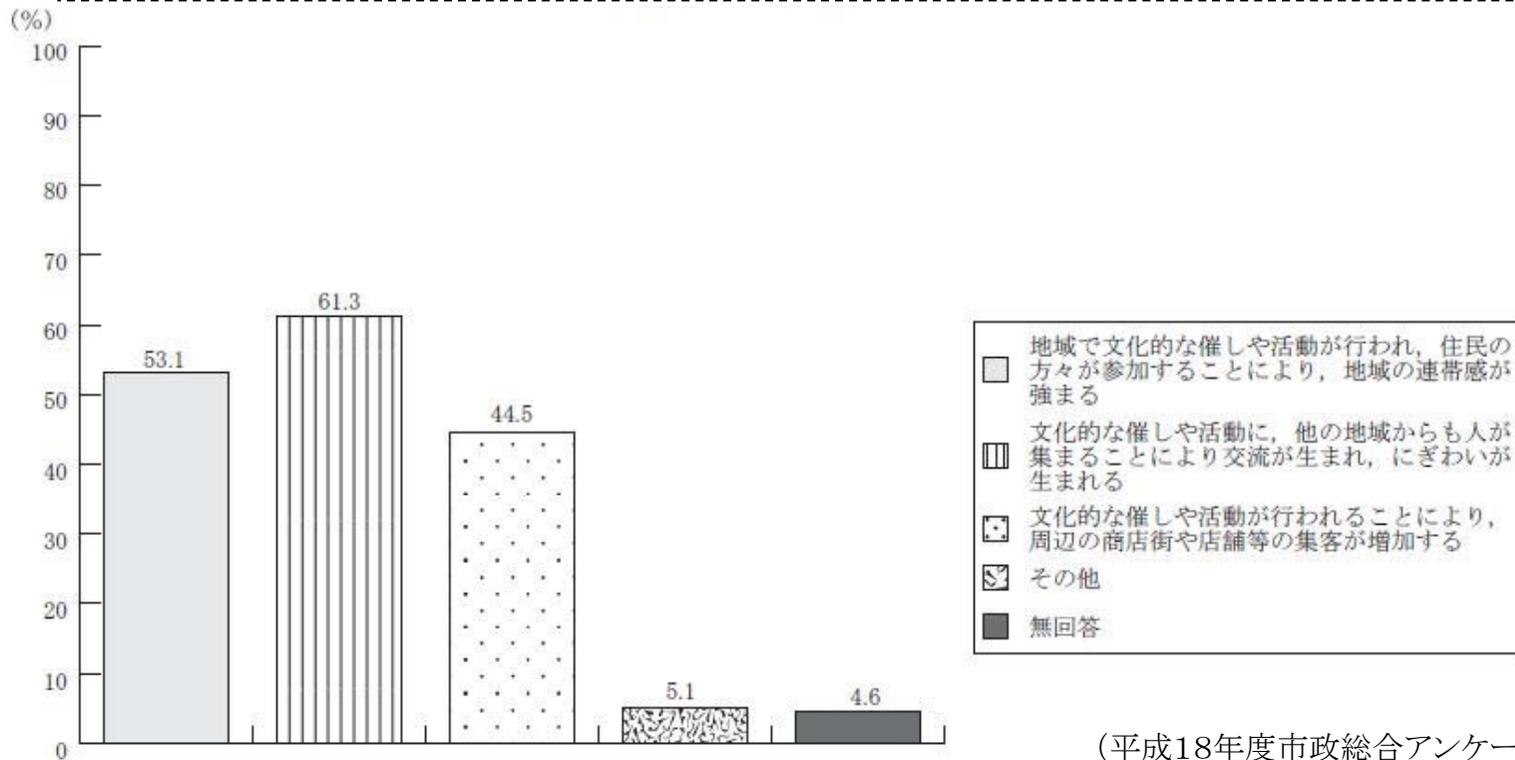


## ◆市民の声

追い風

➤ 文化芸術の活用が地域のまちづくりに有効であると考えられている

6割の市民が「文化的な催しや活動に、他の地域からも人が集まることにより交流が生まれ、にぎわいが生まれる。」と回答





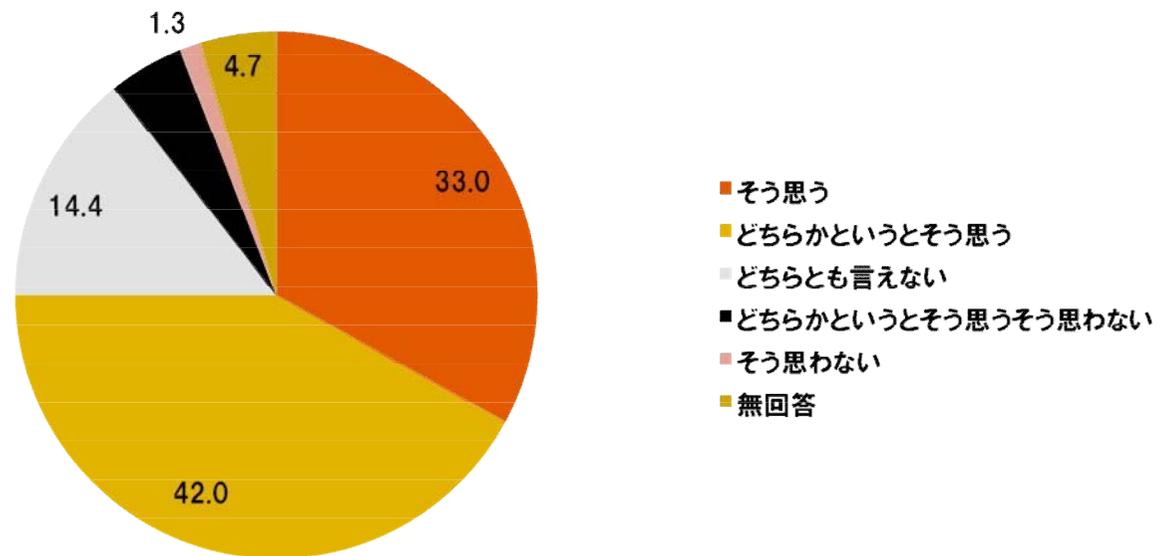
## ◆市民の声

## 京都の強み

➤ 市民満足度が高い

「京都では文化・芸術活動が盛んである」は「a」評価

京都では文化・芸術活動が盛んである  
(平成21年度市民生活実感調査)



(平成20年度市民生活実感調査)

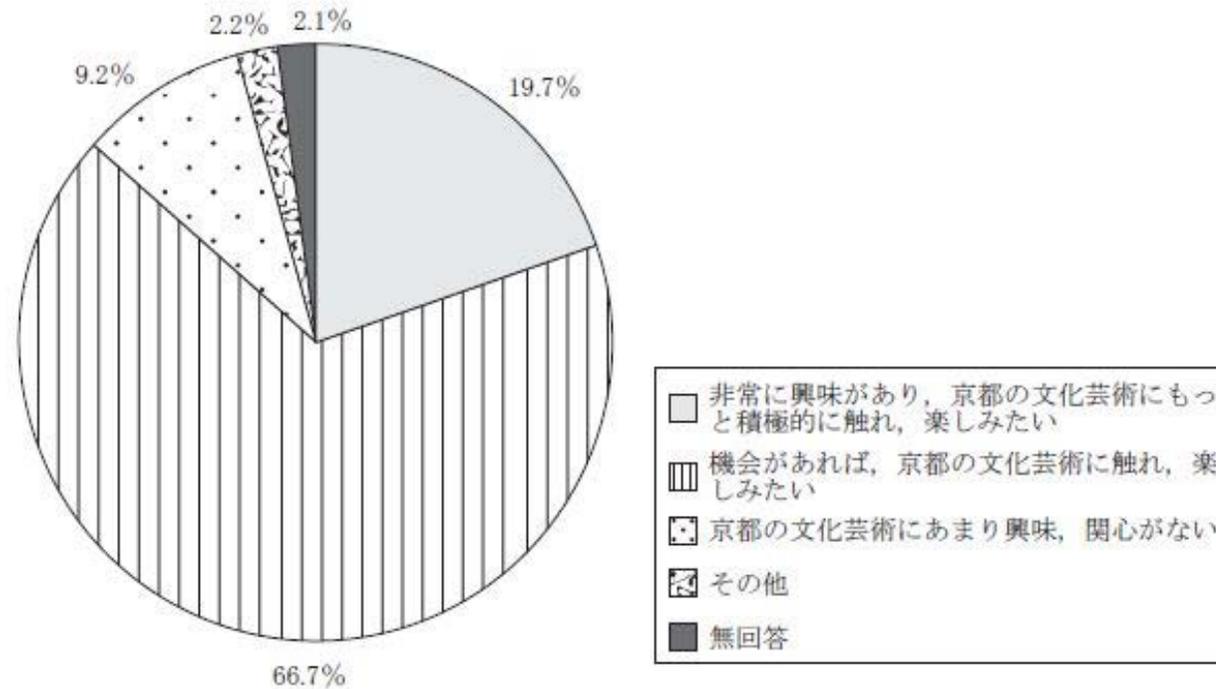


## ◆市民の声

## 京都の強み

➤ 市民の文化芸術への関心が高い

6割の市民が文化芸術を楽しみたいと回答



(平成18年度市政総合アンケート)



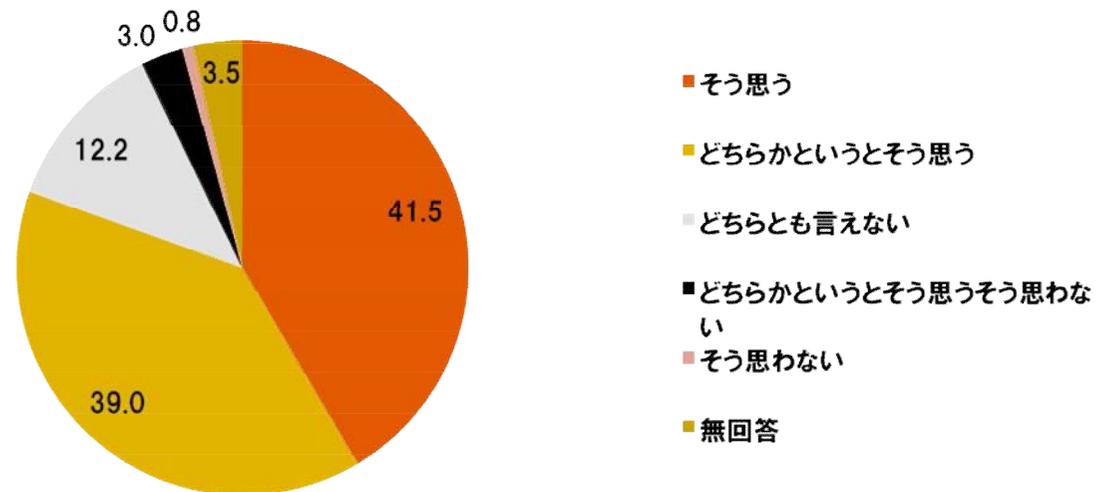
## ◆市民の声

## 京都の強み

➤ 市民も「京都では文化財に親しむ機会が多い」と実感

「京都では文化財に親しむ機会が多い」は「a」評価

京都では文化財に親しむ機会が多い  
(平成21年度市民生活実感調査)

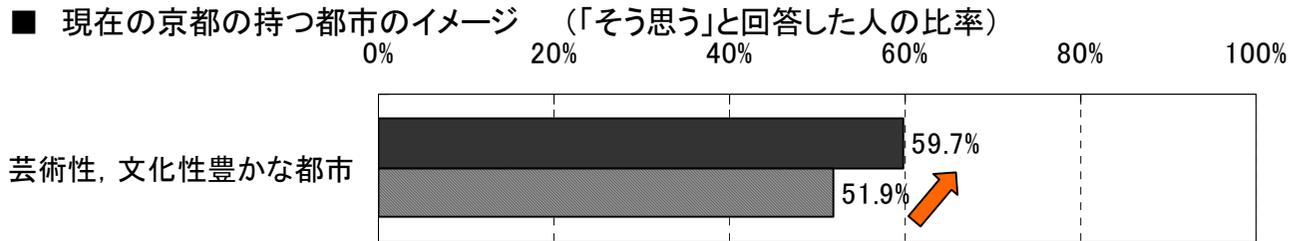


(平成21年度市民生活実感調査)



## ◆市民の声

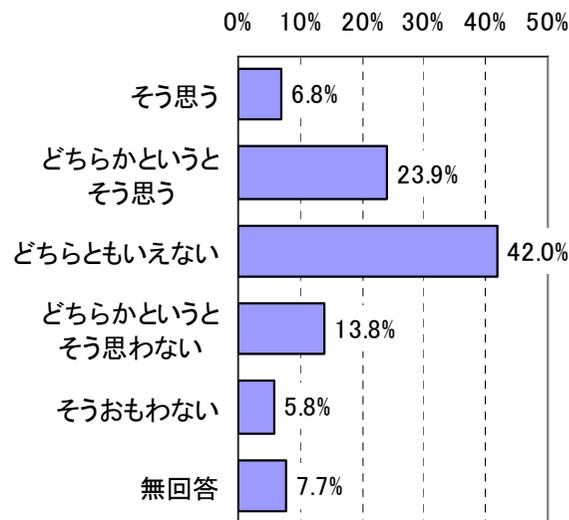
◇京都の都市イメージとして、「芸術性、文化性豊かな都市」であると思う人の割合が増加（H9→H20）  
（1万2千人市民アンケート結果）



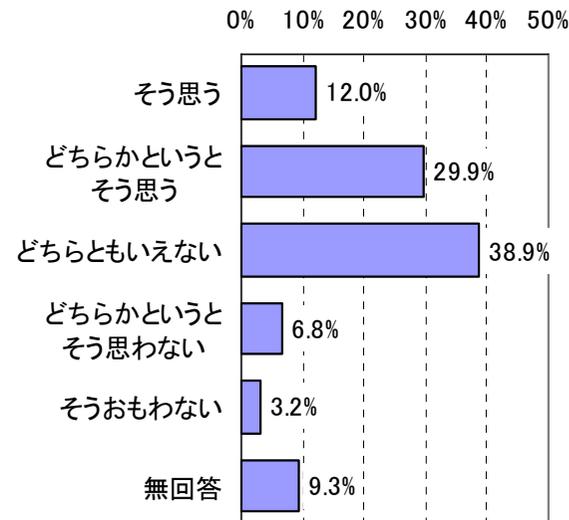
◇「京都では多くの若い芸術家が育っている」と思う人は増加  
（京都市市民生活実感調査の経年比較）

<平成16年度>

<平成21年度>



} 31%



} 42%



## ◆各区基本計画策定に当たって現時点で出された課題

北区	<ul style="list-style-type: none"><li>・文化活動はスポーツ活動と比較して活動人口が少ないのが現状であり，文化活動の場を成果発表の場も含め，もっと増やしていくことが必要である</li><li>・自然や歴史文化などの地域資源のPRを強化するとともに，様々な面から有効活用していく必要がある</li><li>・地域の自然や文化財等の保全や活用，PR，歴史を学ぶことに対し，地域住民の意識を高めていくことが必要である</li></ul>
左京区	<ul style="list-style-type: none"><li>・寺の拝観料が有料である</li></ul>
中京区	<ul style="list-style-type: none"><li>・伝統行事の継承と発展</li><li>・生活文化の再発見と創造</li></ul>
南区	<ul style="list-style-type: none"><li>・文化活動の推進</li><li>・文化的活動の区民への浸透率の高揚</li></ul>
右京区	<ul style="list-style-type: none"><li>・これまでと違った切り口から歴史や文化を活かす</li><li>・地域で培われてきた歴史・文化を活かす</li></ul>
西京区	<ul style="list-style-type: none"><li>・西山山麓を中心に，点在する由緒ある社寺などの歴史的資源を保全するとともに，地域の魅力資源として活用を図ることが必要</li></ul>
伏見区	<ul style="list-style-type: none"><li>・区内の豊かな自然や歴史的資源の保全と魅力の向上に引き続き努める必要がある</li><li>・伏見桃山城や淀城跡の有効活用</li></ul>



## 3-2 主な分野別計画の概要

名称	京都文化芸術都市創生計画									
策定年月	2007（平成19）年3月									
計画期間・目標年次	2007（平成19）年3月～2017（平成29）年3月									
策定根拠	京都文化芸術都市創生条例									
概要	京都がリードする文化芸術のまちづくり（五つの京都先行プロジェクト）と文化芸術都市創生のための総合的な施策を定めた文化芸術振興のマスタープラン									
主要施策と実施状況等	<p>主要施策</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 国立京都伝統芸能文化センター（仮称）の整備に向けた取組</li><li>・ 文化芸術による地域のまちづくり推進事業</li><li>・ 「ようこそアーティスト 文化芸術とくべつ授業」（仮称）等の取組</li><li>・ 若手芸術家等の居住・制作・発表の場づくり</li><li>・ 京都文化パートナー1万人構想に向けた取組</li></ul> <p>実施状況等</p> <table><tr><td>実施中（または実施済）</td><td>51施策</td><td></td></tr><tr><td>一部実施中</td><td>10施策</td><td></td></tr><tr><td>未着手</td><td>16施策</td><td>（平成21年10月時点）</td></tr></table>	実施中（または実施済）	51施策		一部実施中	10施策		未着手	16施策	（平成21年10月時点）
実施中（または実施済）	51施策									
一部実施中	10施策									
未着手	16施策	（平成21年10月時点）								
ホームページ	<a href="http://www.city.kyoto.lg.jp/bunshi/page/00000004509.html">http://www.city.kyoto.lg.jp/bunshi/page/00000004509.html</a>									



## 3-3 融合委員会ワークショップ結果

未来像	重点戦略	補足
日本中・世界中から人が集い交流する文化都市	拠点づくり (ex 岡崎, 北山 文化ゾーンとして再整備)	
もっと文化に触れられるまちに	若者文化パスポート (パリの街)	年間〇〇円で文化施設利用が可能とする
文化が商売になるまち	京都検定から, 体験型の京都通認定をして, 多様な体験をしてもらう	
人を育てるまち, 日本文化のまち	グローバルな人材教育世界からの人材, 才能, 頭脳が集まる制度	
伝統と創造の人づくり まちづくり	伝統を支える人たちと若者のふれあい, 交流の場の設置	
京のもてなし	生活文化を伝える	
街全体を世界遺産に (ショーウィンドウ)	<ul style="list-style-type: none"><li>・各時代の歴史遺産の保全・再生とネットワーク (国家予算, 民間ネットワーク)</li><li>・京町家の保全・再生 (次世代継承システム)</li><li>・&lt;融合&gt;歴史遺産を現代に継承する人材育成 (教育・産業)</li><li>・&lt;融合&gt;文化芸能振興</li></ul>	
都市の遺産を守り抜く 美しく風格のあるまちづくり ひとづくり・ものづくり	<ul style="list-style-type: none"><li>・社寺仏閣, 京町家等の保全</li><li>・伝統芸能・伝統行事等の担い手育成, 門掃き, 水まき等の伝承</li><li>・一子相伝のものづくりなど</li><li>・「ほんまもん」づくりの継承</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・文化担い手</li><li>・地域コミュニティの活性化</li></ul>